

家事を自分でやるのは大変だし、病气や事故など「万が一」も心配だけれど、施設には入りたくない。シニア世代のこうした希望に沿う新しいタイプの住まいが登場している。多世代の住民同士が家事の一部を分担するなどして助け合う賃貸住宅、安否確認や日常生活での簡単な手助けが受けられるマンション。独り暮らしや夫婦だけの高齢者世帯でも、安心して暮らせるのが利点だ。

(針原 陽子)

交代で調理

「まあえにシイタケを入れるなんて初めて」「おいしいでしょ」「ナシ、少し傷んでるみたいだけど食べられるかな」「大丈夫よ」。

東京都荒川区の複合住宅「日暮里コミュニティ」二階の共同キッチン。二、三階部分にある賃貸住宅「かんかん森」の入居者が、交代で夕食を作る。週三回の「コモン・ミール」の日は、夕方からにぎやかな声が飛び交う。

月一回、調理当番の時に、二人で二十数人分の食事を作る。当番でない時には、一食五百円で家庭料理の夕食が食べられる仕組みだ。当番の一人・川崎昭子さん(仮名、五十八歳)は、「自室で料理するのは週に一度あるかどうか。家事のない毎日はずいずいと晴れやかに笑う」。

助け合うコミュニティ

新「ご近所」登場

●多世代の住民同士で家事

●高齢者支援のマンション

夕食は午後七時から食堂で始まり、住人は三々五々集まって来て食事を取る。食後の談笑は十時すぎまで続いた。

趣味の時間

十二階建ての「日暮里コミュニティ」がオープンしたのは、今年六月。



「母を一人で家においていた時は心配だったが、今は面倒を見てもらえるし、何かあってもすぐ駆けつけられる。こういう住まいが増えれば、高齢者がいる家族は助かると思う」。

賃貸住宅のほかに、四十一階に有料老人ホームがあり、うち四十六階は要介護高齢者専用で、常駐するヘルパーの介護サービスが受けられる。一階には有料ホーム入居者の食堂があり、賃貸の住民も食事ができる。診療所や保育所も入っている。

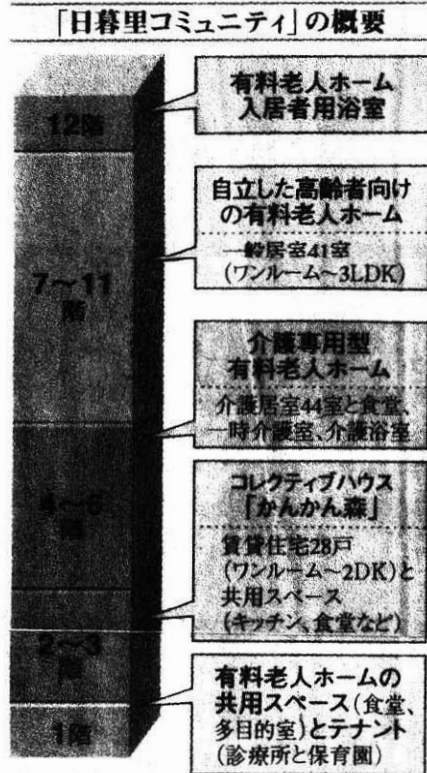
「母を一人で家においていた時は心配だったが、今は面倒を見てもらえるし、何かあってもすぐ駆けつけられる。こういう住まいが増えれば、高齢者がいる家族は助かると思う」。

賃貸住宅の入居者は現在、三歳の男の子から、七十八歳まで二十五人。夫婦二人住まい、子育て世帯のほか、大学生から高齢者まで独り暮らしが十一人いる。家賃は部屋の広さに応じて月額七万四千円から十七万五千円だ。

電話がかかってくる。マンションの一室に事務所を構える介護事業者・NPO法人「ゆいまま」で、高齢者の生活支援を担当する女性からだ。独り暮らしの高齢者でも安心して暮らせるようなマンションを、首都圏の各地で展開しようという計画が進んでいる。手がけているのは、不動産管理会社「コミュニティハウスコーポレーション」と、NPO法人「市民福祉団体全国協議会」。東久留米が第一号で、隣接する清瀬市で第二号ができたばかりだ。

「ゆいまま」のスタッフは、室内でのトラブル処理などの支援サービス以外にも、「ご近所」にあたる高齢者と様々な交流の機会を持っている。事務所が入居者やスタッフらが一緒に昼食をとることもあるほか、誘い合って買い物に出かけることも。妻を亡くして今年一月から入居している北川さんは、「以前住んでいた自宅の周りは坂だらけで、出かけるのも一仕事だった。ここは、助けてくれる人もいて安心」と話す。

「ゆいまま」の八幡茂子理事長は、「高齢でも、少しの手助けがあれば自由に生活できる方は多い。入居者同士の交流の機会を設けつつ、つかず離れずの近所付き合いを大事にしていきたい」と話している。



「ゆいまま」の八幡茂子理事長は、「高齢でも、少しの手助けがあれば自由に生活できる方は多い。入居者同士の交流の機会を設けつつ、つかず離れずの近所付き合いを大事にしていきたい」と話している。

「ゆいまま」の八幡茂子理事長は、「高齢でも、少しの手助けがあれば自由に生活できる方は多い。入居者同士の交流の機会を設けつつ、つかず離れずの近所付き合いを大事にしていきたい」と話している。

「ゆいまま」の八幡茂子理事長は、「高齢でも、少しの手助けがあれば自由に生活できる方は多い。入居者同士の交流の機会を設けつつ、つかず離れずの近所付き合いを大事にしていきたい」と話している。



「かんかん森」のコモン・ミールの日。多世代の住人が集まり、にぎやかに食事を取る(東京都荒川区で)



東京都東久留米市の賃貸マンション。独り暮らしの北川誠次さん(仮名、八十二歳)宅には、毎朝九時前後に「お変わりありませんか」という

「ゆいまま」のスタッフは、室内でのトラブル処理などの支援サービス以外にも、「ご近所」にあたる高齢者と様々な交流の機会を持っている。事務所が入居者やスタッフらが一緒に昼食をとることもあるほか、誘い合って買い物に出かけることも。妻を亡くして今年一月から入居している北川さんは、「以前住んでいた自宅の周りは坂だらけで、出かけるのも一仕事だった。ここは、助けてくれる人もいて安心」と話す。

「ゆいまま」のスタッフは、室内でのトラブル処理などの支援サービス以外にも、「ご近所」にあたる高齢者と様々な交流の機会を持っている。事務所が入居者やスタッフらが一緒に昼食をとることもあるほか、誘い合って買い物に出かけることも。妻を亡くして今年一月から入居している北川さんは、「以前住んでいた自宅の周りは坂だらけで、出かけるのも一仕事だった。ここは、助けてくれる人もいて安心」と話す。

「ゆいまま」のスタッフは、室内でのトラブル処理などの支援サービス以外にも、「ご近所」にあたる高齢者と様々な交流の機会を持っている。事務所が入居者やスタッフらが一緒に昼食をとることもあるほか、誘い合って買い物に出かけることも。妻を亡くして今年一月から入居している北川さんは、「以前住んでいた自宅の周りは坂だらけで、出かけるのも一仕事だった。ここは、助けてくれる人もいて安心」と話す。

- 「日暮里コミュニティ」
- ▼コレクティブハウス「かんかん森」 NPOコレクティブハウジング社 03・5911・6971
- ▼有料老人ホーム コミュニティハウスプラザ 0120・001318
- NPO法人「ゆいまま」 0424・79・2320
- コミュニティハウスコーポレーション 03・5468・6011
- シニアライフ情報センター 03・5350・8491

「ゆいまま」のスタッフは、室内でのトラブル処理などの支援サービス以外にも、「ご近所」にあたる高齢者と様々な交流の機会を持っている。事務所が入居者やスタッフらが一緒に昼食をとることもあるほか、誘い合って買い物に出かけることも。妻を亡くして今年一月から入居している北川さんは、「以前住んでいた自宅の周りは坂だらけで、出かけるのも一仕事だった。ここは、助けてくれる人もいて安心」と話す。